

## 「with コロナ」のボランティア活動について

～お互いに気持ちよく活動するために大切にしたいこと～

### 1. まずはお互いの安心・安全を守りあう視点を

新型コロナウイルスの影響下でのボランティア活動の現場では、

- ・受け入れる施設、団体の利用者やスタッフ
- ・活動するボランティア



**双方がお互いの安心・安全を守る**という視点が大切です。

お互いに「うつらない」「うつさない」ということを意識しましょう。



### 2. ボランティアは「私・発」。

⇒ボランティアは自分の趣味や特技、関心のあること、「ほっとけない」という思いなどから、活動を自由を選ぶことができます。だから多彩で柔軟です。そして、活動するかしないかを選ぶのもボランティアです。最初に**なぜやるのか、誰のためにやるのか**を確認しましょう。

### 3. 会えなくても開きあえる、つながれる工夫を。

⇒「緊急事態宣言が明けたからもう大丈夫」とは思えず不安なときは、抱え込まずにボランティアセンターや受け入れ先に相談してみましょう。

あなたには、お家で普段やっている得意なこと、好きなことはありますか？たとえこれまでやってきた活動と違って、思わぬところにあなたの新しい出番が見つかるかもしれません。**無理なくできること**を考えてみましょう。



### 4. ボランティアは共同作業。立場の違う人が一緒に考えればアイデアは無限。

⇒感染リスクがより高い高齢者や障害がある人を支える福祉施設では、これまでのようにボランティアを受け入れることは困難かもしれません。そんな中でも、花壇の手入れや季節の飾りづくり、利用者とのオンラインでの交流・・・施設に入れなくても心と心を通わせることができる活動はきっとあります。ぜひ受け入れ担当者や支援を必要とする人たちの声を聞きながら、お互いに安心して支えあえるアイデアを施設担当者や団体のリーダーに提案してください。

## ■活動するときに気をつけたいこと

受け入れ先の施設・団体や、応援を求めている人と相談し、お互いの安心のためのルールなどを話し合しましょう。何よりも密なコミュニケーションが大切です。現場の状況も踏まえながら、理解と共感を持って、ボランティアからも感染予防対策や安全面でのしくみづくりなどを提案しましょう。



- ① 参加前に体温の測定を行い、可能な限り活動先への移動中もマスクを着用しましょう。
- ② 以下の場合には活動への参加を控えましょう。
  - ・過去2週間以内に発熱や感冒症状（風邪など）で受診や服薬等をした方
  - ・過去2週間以内に身近なところで肺炎を発症した人がいる方
  - ・そのほか、発熱・咳・全身痛などの症状で体調のすぐれない方
- ③ 活動時はマスクを着用し、活動中、帰宅後もこまめに手洗い・うがい・手指の消毒などをしましょう。活動先で、相手にもマスクの着用をお願いすることも大切です。
  - ※マスクを着用しての活動時は、熱中症にならないよう、こまめに水分補給をしましょう。
- ④ 室内での活動の場合は以下のような対応をしましょう。
  - 部屋の換気等を十分に行いましょう。
  - 参加者は原則としてマスクを着用し、咳くしゃみエチケットを厳守しましょう。
  - 手が届く範囲以上の距離を保つ、大きな声を出すのは控えるなど、飛沫感染を防ぐための徹底した対策をしましょう。
- ⑤ 後日、ご自身の感染が分かった場合は、必ずその旨を活動先にも報告しましょう。

### ※ボランティア保険について※

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ボランティア活動保険の特定感染症に指定感染症(新型コロナウイルス)を追加し、補償の対象になっています。新型コロナウイルスに感染したと想定される付近の日時に活動実態があるか、活動以外に感染要因となる事象(院内感染、クラスター等)がなにか等確認の上、保険会社が判断します。活動時には必ず入っておきましょう。